

1. 調査報告概要表

作成日 2007年10月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4770600205
法人名	医療法人真寿会
事業所名	グループホームまきや
所在地	沖縄県平良市字西原2251番地14(電話)0980-72-4165
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成19年10月25日

【情報提供票より】(平成19年9月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 7人	非常勤 2人 常勤換算 1.2人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,666円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1000		円

(4) 利用者の概要(平成19年9月26日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	785 歳	最低 68 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	1、医療法人真寿会真喜屋精神・神経科医院 2、真喜屋歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、サトウキビ畑が広がる田園地帯で市街地から車で20分ほど離れた位置にある。母体法人の精神科が隣接し、日常的に専門医の関わりがある。ホーム内は、明るく落ち着いた雰囲気があり心地よい。入所者・職員共に、活気があり明るく穏やかな表情が印象的である。開設2年目には管理者の交代等もあったため、課題解決への取組みが後れがちであったが、新しい管理体制の下、職員一同、事業所の体制固めや地域に根ざしたよりよいサービス提供に取り組んでおり今後の活躍が期待される。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題の取組みについては、運営者、管理者、全職員が参加した職員会議を月1回開催し、課題解決に取り組み始めたところである。現在、広報誌の発行や地域推進会議の開催、職員教育等、具体的な取組みについて進行中である。
重点項目	今回の評価の取組みについて、途中、管理者の交代等もあり、運営者との意思の疎通が不十分なために、具体的な取組み方についての周知が遅れ管理者と一部の職員で評価が行われた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議の開催について、その重要性を認識し地域の自治会長や、老人会長等への協力依頼もしているが、開催についての具体的な話し合いがもたれないまま経過している。管理者は、事業所のケアマネージャーや認知症ケアのキャラバンメイトとしても活躍しており、市町村、関係機関との情報交換等、連携を計りながら事業所のサービスの質の向上に頑張っている。人材育成の面からも運営者の理解と適切な関与が望まれる。早期に、運営推進会議を開催し、課題解決の取組みが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	苦情相談については、重要事項説明書に記載し入所時に説明している。電話連絡や、家族面会時、家族会の開催時に、意見や苦情等聴取に努めている。苦情は発生していないが、意見や要望については、迅速に話し合いをもちサービスに反映させている。苦情相談窓口について、事業所や外部機関を明示し、意見箱を設置されたい。
	自治会に加入はしていないが、敬老会に地域の自治会長や老人会長が参加したり、他社のデイサービスや、市が主催するイベントや行事に参加し交流に努めている。今後、認知症ケアの拠点として、自治会への加入や広報誌の配布、相談活動などを開催し、より身近な地域住民とのふれあいの場や協力体制が得られるよう検討が望まれる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念4つに加え、介護理念7つを解り易い言葉で作りにあげている。		パンフレットにも介護理念を追記されたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間に介護理念を掲示し、申し送りやミーティング時に、全員で唱和し確認しながら日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	他社のデイサービスや市が主催するイベントや行事に参加している。地域の自治会や老人会への加入はしていないが、事業所の敬老会に、自治会長や老人会の代表者が参加し交流に努めている。		集落から離れたホームの立地条件からも、積極的に自治会や老人会等に参加し、身近な地元の人々との交流促進が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価についての反省会がもたれているが、途中、管理者や職員の交代もあり、改善点などの確認や自己評価についての周知がされてなく一部の職員のみで評価している。		運営者、管理者は、評価の意義や改善点について、職員と共に情報を共有し、職員全員での計画的・継続な取組みが出来るように周知されたい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催について、開催についてのきっかけを作っているが推進されていない。		運営推進会議が定期的に行われるように、早急に検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、ケアマネージャーや地域における認知症キャラバンメイトとして活躍しており、関係者との連携を計りサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の心身の状況の変化については、個別に電話連絡等を行っているが、その他についての定期的な報告は少ない。利用者の家族からの同意を得られていないため、金銭管理は行われていない。		定期的に、家族便り等を発行し、ホームから家族への積極的な情報提供が期待される。利用者が、お金を持つことの意義を理解し適切な対応が望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や訪問時を利用して何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、課題については、その都度、職員で話し合い解決に努めている。		苦情相談の窓口について、事業所や外部機関を明示し、意見箱等も設置されたい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人組織の中での職員の移動はないが、調理職員2人は調理のパート専従になっており利用者との関わりが少ない。これまでに、管理者1人、介護職4人の離職がある。		運営者は、管理者や職員との話し合いの場を定期的に持ち、情報を共有し働きやすい職場作りを支援して欲しい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、施設職員、地域の精神科医師との勉強会に参加し情報交換をしたりしているが、全職員が研修に参加する機会は少ない。		全職員が、働きながら学べる機会が得られるように、教育プログラムを作成し、計画的な取組みを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会は少ないが、他施設とケアマネージャーや介護職の交流会、勉強会を開催し、情報交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前見学や家族や本人の状況等、情報交換し、薬物調整などを適切に行い、本人や家族が安心し納得した状況で受け入れを調整している。</p>		<p>ふれあいデイサービスを検討中であり、早期実現が期待される。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>笑顔と笑いをモットーに、食事や団欒、レクリエーション、散歩等日常生活を共にしながら支えあう関係づくりに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中でまめに声かけをし、行動や表情の変化等から反応を確かめ希望や意向を把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を採用し、ミーティングやカンファレンスで情報を整理し、介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況変化については、即、介護計画を見直し作成しているが、個別の定期的な見直しについては充分でない。</p>	○	<p>定期的な見直しについては、ケアマネージャーと担当者のみでなく、関係職員が幅広く参加した検討が望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの多機能を活かした取組みについては認識し、具体的な支援については検討中である。(宿泊、ターミナルケア、ふれあいデイサービス)		指針を作成し早期実施が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、本人や家族が希望する医療機関の受診を支援し、家族の同意を得て職員の代行等が行われている。連携医療機関として、法人の真喜屋精神・神経科医院と真喜屋歯科医院があり、月2回の訪問診療が行われている。		連携医療機関との文書による契約書を取り交わされたい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの取組みについては、パンフレットにも記載し入居時に説明がなされているが、事例としては経験がない。		事例が発生した時に、適切に対応が出来るよう指針を作成し、関係機関との調整やマニュアルの作成等、検討会が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的に、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は見られない。記録等は、事務室に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れに添って、一人ひとりのペースを尊重し、気持ちを確かめながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理職員は専従になっており、その日のメニューや買出し、調理等、利用者の関わりが少ない。もやしのひげとりなどは行っている。食事は職員も共に同じものを食している。		利用者の潜在能力を引き出す機会として、食事との関わり の意義や職員の役割について検討が望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数については、特に制限はしていない。一人ひとりのタイミングに合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	もやしの髭取り、洗濯物たたみや草刈、ドライブ等、一人ひとりの気持ちを確かめ得意分野を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム敷地は広く開放的で、周辺の散歩や玄関先でくつろいだりしているが、集落までは遠く日常的に近隣の町へ出かけた時、隣近所としての交流はない。時に、ドライブを楽しんでいる。		地域住民との交流の機会について、検討が望まれる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、声かけなど安全面に配慮しながら自由な出入りを支援し、鍵をかけないケアが行われ開放的である。(朝6時～20時まで開錠)		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策についての取り組みはなされていない。		消防署や自治会、地域住民等の協力が得られるように、運営推進会議などを活用し、マニュアルの作成や定期的な訓練が行われるように、体制作りについて早急に検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェック表に記録し、水分補給は居間にお茶を準備し時間を決め促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に、採光や風通しが良く不快な臭いもなく快適である。共用空間にテーブルセット、ソファ、畳間などがあり、テレビやCDなどが楽しめるようになっている。玄関横にはテーブルセットを配置し、利用者が談笑したり音楽を楽しんでいる。		馴染みの家具や調度品、置物等を配置し、家庭的な雰囲気作りについても検討されたい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みや思い出での品など一部にはあるが、利用者の家族から協力が得られていないこともあり、全体的には居室としての個々の雰囲気は感じられない。		その人らしい部屋作りについて、家族への啓発や要望も検討されたい。